

第50回 全国学童保育 指導員学校 北関東会場

放課後児童支援員等の資質向上のための研修会

本研修会は、学童保育指導員(放課後児童支援員等)の資質向上のための研修です。全国8会場で開催し、昨年実績で約5,000人の方が、子どもたちの放課後の生活を豊かにするために学んでいます。どなたでも参加できます。

オンライン(zoom)による研修 **受講料2,500円**
2025年6月22日(日) 9:15受付(入室)

9:15	10:00	12:00	13:00	16:00
受付(入室)	全体会	休憩	15講座	

● 基調報告 全国学童保育連絡協議会

● 全体講義 自分の時間の主人公になれる放課後づくり

— 子どもの放課後は子ども自身のもの —

【講師】阿比留久美氏 (早稲田大学文学学術院教授)

子どもの「居場所」は増えてきましたが、子ども時代が豊かで楽しいものになっているでしょうか。子どもにとっての放課後を「生きているという手応え」をつくる時間となるように、放課後の時間を支える大人に何が求められているかを考えます。

【プロフィール】 東京生まれ東京育ち。博士(文学)。社会福祉士、精神保健福祉士。現在、神奈川県子ども・若者施策審議会委員、神奈川県地方創生推進会議委員。

【著書】『子どものための居場所論』(かもがわ出版)、『孤独と居場所の社会学—なんでもない“わたし”で生きるには』(大和書房)など。

主催：全国学童保育連絡協議会／埼玉県学童保育連絡協議会

■お申し込み・受講料振り込み■ 下記 URL をご覧ください。

- <https://drive.google.com/drive/folders/10JwxBo8Tely1vBgP17QzEyY0LI-FE9HZ?usp=sharing>
- 1台のパソコン等で複数名受講できますが、受講料は1名あたり2,500円です。またその場合、午後の講座は共通のものとなります。受講料2,500円を振り込みのうえお申し込みください。
 - 携帯電話会社が提供するキャリアメール(**@docomo.ne.jp など)ではお申し込みになれません。



● 振込先口座 ゆうちよ銀行 019店 当座預金 0093727
(郵便振替 00160-7-93727)
名義：埼玉県学童保育連絡協議会

● 申し込み用メール gakudoust@gmail.com (埼玉県学童保育連絡協議会)

● 申し込み締め切り **6月2日(月)**

● 申し込み受付後 6月12日(木)までに、資料や接続練習会、ZOOMの接続情報等、受講に必要な事項をまとめ、指定のメールアドレスへ送ります。

● 接続練習会 6月17日(火)、午前10:00～11:30、午後8:00～9:30にZOOMの接続練習会をおこないません。ZOOMの操作に不安がある方は練習会への参加をおすすめします。

● キャンセル 6月16日(月)までに、メールでご連絡ください。事務費(振込手数料)を差し引いた額を返金いたします。6月17日(火)以降のキャンセルは返金できません。

申し込み・
問い合わせ

埼玉県学童保育連絡協議会

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町4-147-1 藤本ビル3階
TEL. 048(644)1571 FAX. 048(644)1572

できるだけ
メールまたは
FAXで、お願
いします。

第50回 全国学童保育指導員学校・北関東会場 講座

*講座の末尾の番号は、全国学童保育連絡協議会が作成した「指導員の研修課目(試案)」に該当するものです。

● 入門講座 指導員として基本的な事項を学びます。

1 学童保育とは何か、指導員の仕事・役割は何か

【講師】一ノ瀬 香緒里 (群馬県桐生市指導員) Ⅰ-1-④ Ⅱ-1-① Ⅲ-1

学童保育は共働き、一人親家庭の親の労働を保障し、子どもたちの生活を守る場です。指導員は、日々子どもたちの生活をつくることを通して、親が安心して働くことを保障しています。そのためには、子どもたちの信頼に応える力量や指導員としての職業意識も求められます。学童保育の仕事・役割、指導員である事から生じる倫理等について学びます。

2 学童保育の一日と指導員の仕事・毎日の実務

【講師】勝又 裕美子 (埼玉県草加市指導員) Ⅱ-3

新任の頃は子どもと一日、どう過ごせばよいか悩む方が多いのではないのでしょうか?宿題、おやつ、あそび等の流れをどう作るか、行事などの取り組みをどうするか、年間の流れ、一日の流れをどうつくるかを具体的に学びます。また、指導員の仕事は、保育以外に打ち合わせ等の事前準備、保育記録などの事後のこと、保護者や学校、行政との連絡などもあります。それらの実務についても学びます。

3 日々の記録から実践の記録へ

【講師】合田 瑞穂 (埼玉県さいたま市指導員) V-1

日々の保育を記録することは、指導員自身が保育内容を振り返って確かめ、より豊かな実践をつくっていく上で大切な仕事です。記録をもとに指導員どうしが話し合い、検討し、学びあうこと、この積み重ねが実践の向上につながります。また、国の「放課後児童クラブ運営指針」にも記録の必要性が示されています。実践を記録することの意味から、実際に記録を書いていることまでを学びます。

*理論講座4-11、実践講座12-14、運動に関わる講座15は裏面をご覧ください。

*講座の末尾の番号は、全国学童保育連絡協議会が作成した「指導員の研修課目(試案)」に該当するものです。

●理論講座 子どものことをより深くとらえるために専門的に学びます。

子どもの発達を学ぶ

【講師】常田 秀子 (和光大学現代人間学部 教授) III-1 IV-2

指導員の仕事を進めるうえで、子どもを深くとらえることが求められます。さらに今日、様々な要因から子どもたちの育ちに課題があるケースが多くなっていることから、子どもをよりいねいとらえることが求められています。学齢期の子どもの発達の特徴や、今日的な特徴を理解した上で、子どもたちの成長をどう促していくかを学びます。

「改訂 放課後児童クラブ運営指針」を学ぶ
～子どもの権利条約をふまえた生活づくり～

【講師】佐藤 正美 (全国連協役員・埼玉県さいたま市指導員) III-1 IV-2

今年1月に改訂された「運営指針」には、「こどもが放課後児童クラブでのルール等について意見を表明する機会を持つことや、こどもの生活や遊びに影響を与える事柄については、こどもが放課後児童支援員等と共に考え、共に決めることができるよう努める」等が新たに明記されました。「子どもの最善の利益の保障」を謳う子どもの権利条約の理念を踏まえての改正です。改訂された「運営指針」を学びます。

発達障害の子どもたちの理解と支援

【講師】佐々木 将芳 (静岡県立大学短期大学部 講師) III-4

生活の中で落ち着かない、ひとの話が聞けない、言葉の前に手が出てしまう「ちょっと気になる子」。「LD」「ADHD」等、発達障害だと特別扱いすることで解決することはありません。そうした子どもをどう理解し、支援していくか、学童保育の生活の中で何ができるかを考えましょう。

子どもとのかかわり方 ～作業療法士の視点から～

【講師】森川 芳彦 (川崎リハビリテーション学院 准教授 副学科長) III-6-③

作業療法士には、“「生活」と「遊び」から子どもの発達支援をする”方たちがいます。まさに学童保育と同じですね。作業療法士の視点から、子どもの「生活」や「遊び」を捉え直してみよう。子どもたちの行動一つひとつを見る目が変わります。また、子どもの不思議な行動や、大人には「困った」と思える行動にも、ちゃんと理由があることがわかります。どの子どもにとっても、指導員にとっても、毎日の生活が楽しくなるヒントが満載です。

教室の中の子どもたち ～学校と学童保育～

【講師】白根 悠子 (公立小学校教諭) III-2-②③

学童保育の子どもたちは、学校と学童保育で生活しています。学校と学童保育とで、見せる顔が違うこともよくあります。指導員は、学校での子どもの様子を知ることで、子どもたちへの理解が深まります。学校現場は、いじめや学力などたくさんの課題・問題を抱え、多くの教師は悩みながら子どもと向き合っています。学校は今どうなっているのか? 学校・教師と学童保育がどう連携して、子どもを支援していくかを学びます。

ネット社会で育つ子どもたち～どんな困難があるか、大人にできることは?～

【講師】中西 新太郎 (横浜市立大学名誉教授) III-2-④

ネット社会は、いま、子どもたちの成長に不可欠な環境となっています。ゲームなど、子どもたちを引きつける大きな魅力があるだけでなく、教育の場でもネット利用が拡大しています。同時に、ネット社会だからこそ生じる危険も子どもたちの生活に入りこんでいきます。ネット利用にはどんな問題があるか、ネット社会で生きる子どもたちの成長を支えるために大人ができることは何かを共に考えてみます。

児童虐待を考える

III-1-② IV-6-⑤⑥ IV-7-③

【講師】渡辺 好恵 (埼玉子どもを虐待から守る会)

児童虐待は、増え続けています。子どもの生活と密接に繋がっているため、指導員は時として児童虐待の第一発見者となる場合があります。一方で学童保育における児童虐待も残念ながら起きています。児童虐待をなくすためには、まず児童虐待について正しく理解することが必要です。そして私たちにできることを学びましょう。

大人に知って欲しい生(いのち)と性のおはなし

【講師】上田 美和 (栃木県宇都宮市助産師) III-1-①

日本でも多様性を認められる社会を目指し始めましたが、皆さんのクラブではいかがでしょうか? ジェンダーやLGBTQ(性的マイノリティー)について理解を深めたいと思いつつ、そういう機会は多くないのが現実です。生と性について知ることは、人として根本的な大切なことを知ることで。子どもたちが、性について、自分について、なんでも相談できる大人の一人になってみませんか?

安全安心が学童保育を～安全対策・緊急時対応～

【講師】永井 健太 (日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 講師) II-2-⑥

「運営指針」は、「放課後児童クラブにおける育成支援は、こどもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら子どもが自ら危険を回避できるようにしていくとともに、こどもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように」と記しています。生活づくり(育成支援)の上で安全対策と緊急時の対応について学びます。

●実践講座 指導員の仕事を実践的に学びます。

子どもの生活を保護者と伝え合う

【講師】山内 由希 (埼玉県さいたま市指導員) IV-6

保護者は、わが子が学童保育に楽しく通い、育っている実感があって、初めて安心して働き続けることができます。学童保育での子ども様子を保護者に伝えることは指導員の大切な仕事です。保護者と伝え合うことの重要性、何をどのように伝え合うのかを学びます。

学童保育の職員集団と職員会議のあり方を考える

【講師】実方 由佳 (岩手県立大学社会福祉学部准教授) II-3-③ III-3-⑤

学童保育においては複数の指導員で子どもたちの生活をつくっています。職員集団・職員会議において、子どもたちの様子、指導員の関わりを出し合い、振り返り、深め合うことができることがよりよい生活づくりにつながります。職員集団・職員会議で大事にしたいことは何か、どのように指導員同士の話し合いを作っていくかを学びます。

●運動に関わる講座 学童保育をめぐる情勢と課題、指導員の労働条件改善など運動に関わる問題を学びます。

学童保育と指導員をめぐる情勢と課題

【講師】佐藤 愛子 (全国学童保育連絡協議会事務局次長) I-1-②

2023年4月、こども家庭庁スタート、こども基本法施行、2024年度予算で「常勤複数配置補助」創設、同年12月に「放課後児童対策パッケージ」発出、今年1月、「改訂運営指針」発出など、学童保育の施策をめぐる状況は大きく変化しています。全国学童保育連絡協議会の実施状況調査などから大規模化、途中退所の問題があることがわかりました。現状と課題を確かめあい、学童保育をより良くしていくための運動の視点を学びましょう。

毎月3万人が読んでいる日本で唯一の学童保育の月刊誌!
月刊『日本の学童ほいく』あなたも読んでみませんか?

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

